



平成30年度 ヤクタネゴヨウ保護対策について

平成31年2月27日
林野庁 九州森林管理局

1 経緯等

屋久島西部に位置する平瀬国有林10林班内の瀬切川左岸は、屋久島におけるヤクタネゴヨウの自生地のひとつであり、その自然環境、生態は地域の自然を代表する重要な群落となっており、瀬切川ヤクタネゴヨウ希少個体群保護林（以下、「保護林」という。）を設定している。

本年度の松くい虫被害調査を実施したところ、保護林内でマツノザイセンチュウによるクロマツ被害木1本、隣接する森林生態系保護地域（4林班は世界自然遺産地域も含む）内でクロマツ被害木2本の合計3本の被害木を確認した（被害木位置は別図のとおり）。

2 対策等

確認を受けて屋久島森林管理署と地元のヤクタネゴヨウ調査隊が現地調査・検討を行った結果、本来であれば被害木に対して伐倒駆除（燻蒸）又は特別伐倒駆除（破碎又は焼却）の駆除対策を講じる必要があったが、現地は断崖絶壁等の地形のため、駆除作業は困難との判断に至った。

このため、今回発見されたクロマツ被害木周辺を中心に保護林内のヤクタネゴヨウ（被害木周囲のクロマツを含む）に対して予防対策を講じることとし、本年度中に実施可能な範囲で樹幹注入を実施する（樹幹注入は47本を予定し、実施予定区域は別図のとおり）。

今後においては引き続き被害の発生状況をモニタリングしながら、被害発生箇所の地形等に応じて伐倒駆除等の駆除対策と樹幹注入の予防対策を検討し、ヤクタネゴヨウの保護対策を講じていく考えである。

松くい虫被害木発生位置及び樹幹注入実施箇所位置図

